

無農薬のイネづくり 往復メール②



東京国際フォーラムの一角に「ごはんミュージアム」というお店があるのをご存じですか。私は知りませんでした。全国農協中央会が常設しているものです。ここで毎月1回開かれる「ごはんdeゼミナール」とやらで、田んぼの先生を務めてきました。(くわしくは後ほど)

先日の問い合わせの件、一部間違っていました。牛糞の量です。2tトラックで一杯でした。つまり、1反当たり、約0.5tということです。以上訂正いたします。

再び、牛糞について教えてください。それは、牛糞は塩分が多く、あまり多く入れると田んぼがガチガチに荒れてくるというのです。知人2人から聞きました。何か情報がありましたら教えていただきたくよろしくお願いいたします。

一口に牛ふんといっても、産出される牧場・牛舎によって敷料の原材料や発酵熟度が異なり、組成や成分もまちまちです。したがって当方からの即断はしかねるのですが、一般論として次のように考えます。

＊

多くの牛舎で、敷き料としてはオガクズや樹皮が使われています。そういった木質の資材は、稲ワラやモミガラと比べ、土中で分解しにくい有機質です。

何度も切り返しをして分解(発酵)をすすめた堆肥なのか、それとも、ただ積み上げておいただけのものなのかによって、作物への影響は全くちがってくるはずですよ。

土の中で、未熟な有機物が分解されるときには、チッソ分を消費します。だから、肥料のつもりで牛ふんをやっても、かえって肥料分が奪われてしまうことにもなりかねません。さらに、その分解過程で、作物の根に障害を与えるガスなどの発生もあるといわれます。

ワラやモミガラを燃やしている風景を見ますよね。これは、生の

有機物を土の中に入れると稲に害になるから(もったいない!)というのが理由です。

それよりもはるかに分解しにくい木クズを投入するとすれば、より注意は必要になると思います。病気や害虫を寄せることにつながったりする恐れもあります。

いい土をつくるのは有機物と微生物の力なのですが、それは諸刃の剣でもあるわけです。

＊

あ、塩分についても質問いただいていますね。牛は、塩を自由になめられる状態で飼われているので、それで牛ふん中の塩を問題にしているとすれば、それは心配ないと思います。

ただし着目したいのは、やはり牛舎の敷き料のほう。以前、日立港の周囲で水に浮かんでいる材木をよく見かけました。いまはどうでしょうか。

これは外国からの輸入材で、海水がたっぷりしみ込んでいるはずですよ。それを切ったときに出るオガクズだと、やはり塩分は多くな

るのではないのでしょうか。

そのほか防腐剤をしみ込ませた材木を切ったときのオガクズなどもどんなふうに通じているのか気になるころではあります。

＊

どうもキリがないので理屈は打ち切って、結論。

これまでTさんが投入しているていどの量でしたら、「害」の心配はしなくていいはずですよ。そして継続していくことで、土づくりがすすんでいくと思います。

いっぽう、稲の生育にとって養分不足がうかがわれるわけですが、だからといって牛ふんを増やすのではなく、他の資材との併用を考えてみてはいかがでしょうか。化学肥料に頼らなくても、いろいろな有機肥料が流通していますよね。こだわらなければ、ボカシ肥料などを作ってみるのもいいと思います。

＊

養分吸収の面では、雑草との競合に負けているという現実も見逃さず。今回は、それも合わせて、雑草対策について考えてみることにします。